

全年年・地理「『中国・四国』探究を日常化 ——MMR×オクリンクプラス×生成AIで、個別の問い合わせつながり、まとめが磨かれていく授業」



- 提出BOXによる過去の学びの参照と、ライブモニタリングによる思考過程の把握を組み合わせ、個別探究と協働の往還を促す活用
- 生成AIを「正解を与える存在」ではなく「伴走者」と位置付け、調べる方向性の整理やまとめの表現を磨く足場かけとして活用

活用背景・ねらい

学力・意欲に課題を抱える生徒が多く、「子どもに委ねると規律が崩れる」という先入観から講義中心が続き、主体的に学ぶ姿が生まれにくかった。加えて「深い学び」は研究授業だけという認識があり、日常改善につながりにくい。そこで、**金沢探究スタイル**を軸に授業を再設計し、生成AIを思考の伴走者、オクリンクプラスを学びの基盤として、誰もが個別の問い合わせを起点に、まとめを磨きながら学びを深められる授業へと転換する。

成果・効果

2年生4クラスのアンケートにおいて、「社会は好き」89.6%、「内容が分かる」92.2%と、いずれも他4教科平均（66.3%、74.2%）を大きく上回った。また、「友だちとまとめを共有できた」98.2%、「自分の言葉で表現できた」96.5%と、共有・表現に関する項目でも、高い肯定的評価が得られた。探究の途中過程や考察をオクリンクプラスで可視化し、他者の視点を参照しながら考えを磨き直す学習過程の中で、生成AIによる「次の一步」の支援を得ることで、個別探究は協働と表現の深化へつながった。こうした学びの積み重ねにより、課題設定から共有、まとめを磨く学びが連続する学習サイクルが形成され、日常的に機能したと考える。

授業・取り組みの流れ

①学習環境の再設計：

旧パソコン室を改装した**MMR（自ら学ぶルーム）**を主な学習の場とし、座席・机配置を固定せず、目的に応じて自由に移動できる環境を用意する。調べて考え、話し合い、確かめ直す学習の姿が、自然に生まれる前提を整える。

②導入：共通視点→個別の課題設定

「交通網の発達は産業や生活にどう影響したか」を共通視点に置き、既習の本州四国連絡橋・高速道路網などの資料を手がかりに、生徒が自分の探究課題（着眼点・理由）を言語化して設定する。教師は課題をスクリーン共有し、課題の違いに気付かせることで、探究の見通しをもたせる。

③展開：個別探究を軸に「デジタル↔リアル」を往還

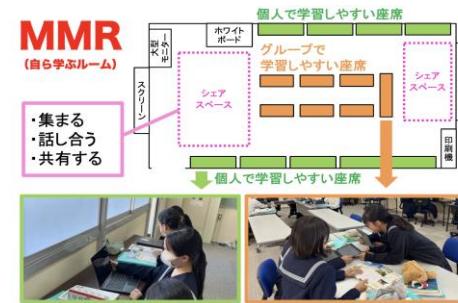
生徒は資料を読み取り、自ら設定した課題に沿って、産業（工業・農業・観光等）への影響を多面的に調べる。途中で他者のカードや掲示ポスターを参照し、必要に応じて移動・相談しながら問い合わせの焦点や見方・考え方を広げていく。生成AIは「調べる方向性の示唆」「表現の深化」を役割として明確にし、思考が止まりやすい生徒の足場として活用する。教師は答えを与えるのではなく、進度や理解の状況に応じて関わり、個別に深まった問い合わせや考察を協働的な学びへとつなぐ。

④まとめ：共有を意図的に設計し、表現を磨く

オクリンクプラスで探究成果をカードに整理して隨時共有しつつ、ペア共有・全体発表の場も設定して、交流が固定化しないようにする。生徒は他者の表現を参照して自分のまとめを修正し、交通網の発達が地域ごとに異なる影響を与えることについて理解を深める。最後に学びの過程を振り返り、見方や考え方の変化を次の学習へとつなげる。



出典：金沢市教育委員会『新金沢型学校教育モデルリフレット』（一部抜粋）



個人で学習しやすい座席

グループで学習しやすい座席

個人で学習しやすい座席

シェアスペース

シェアスペース

ポスター掲示板

印刷機

個人で学習しやすい座席

</